

畔田谷津ワークショップ 取組事例報告

～自然共生サイト認定と市民協働の取組～



佐倉市経済環境部生活環境課
環境政策・自然環境班
主事 中村 壮梧

目次

1. 畔田谷津ワークショップとは？
2. 自然共生サイトの認定
3. ワークショップメンバー 美濃和さんのお話



I. 畔田谷津ワークショップとは？

1. 畔田谷津ワークショップとは？

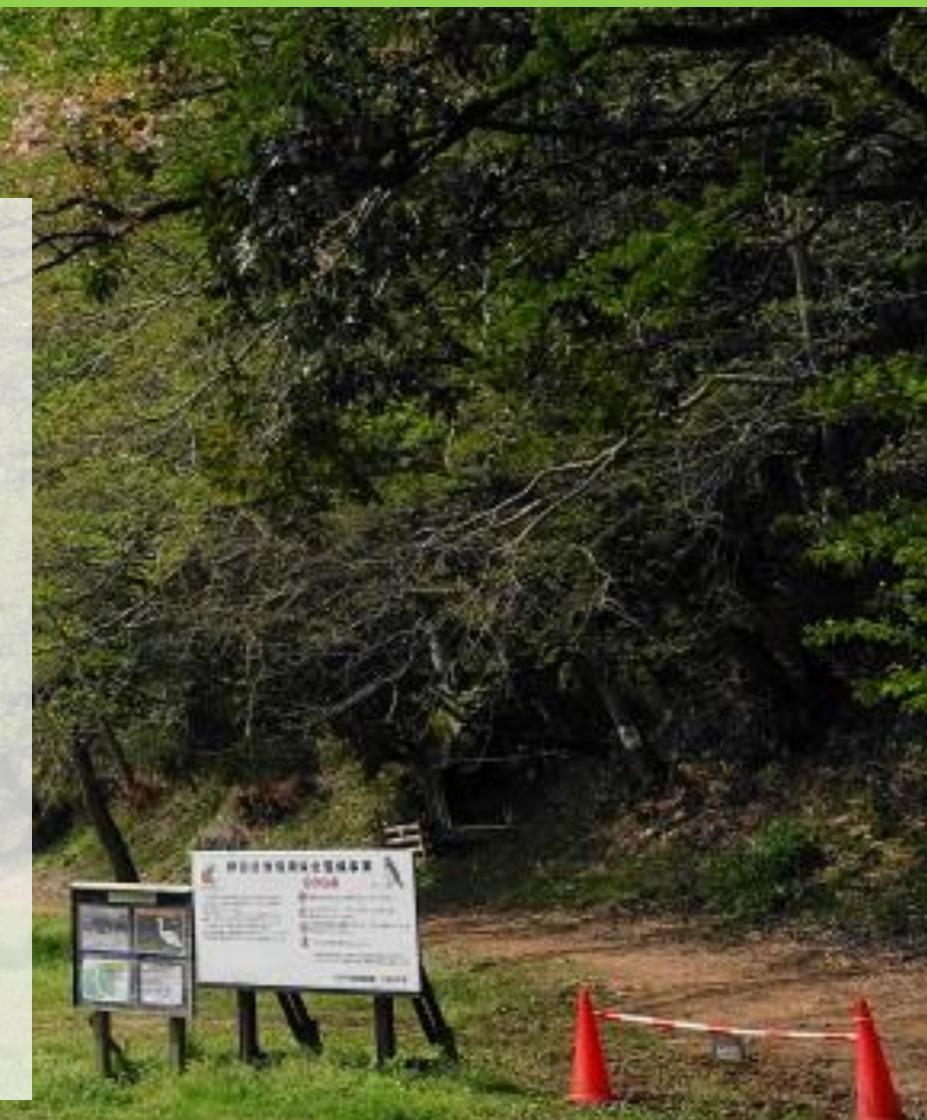


所在地 佐倉里山自然公園内
(佐倉市下志津・畔田)

面積 約9.4ha

1. 畑田谷津ワークショップとは？

- ・平成18年～ 協働事業開始
- ・耕作放棄地を復元した里山保全活動
- ・活動は月2回+各活動班
⇒草刈、池の草抜き、清掃、調査など
- ・市（事務局）と市民ボランティア
⇒運営委員（市民）5人
- ・会員数 37人



1. 畑田谷津ワークショップとは？



草刈り

1. 畑田谷津ワークショップとは？



泥上げ

1. 畑田谷津ワークショップとは？

昔ながらの里山景観



稻作班



1. 畑田谷津ワークショップとは？



ニホンアカガエル



サシバ



里山の生き物



ノハナショウブ



1. 畑田谷津ワークショップとは？



観察会「生きもの見つけ隊！」



2. 自然共生サイトの認定

2.自然共生サイトの認定

類型：維持タイプ

市有地：約6.3ha



2.自然共生サイトの認定

佐倉里山自然公園グリーンインフラアクションプラン

佐倉市

令和6年6月

2.自然共生サイトの認定

01

OECM認定を契機とした谷津保全プロジェクト（みどりの保全）

佐倉里山自然公園グリーンインフラアクションプラン



プロジェクトの概要・目的

- ✓ 近年、気候変動への対策だけでなく生態系の保全が国際的に求められている。
- ✓ こうした中で、佐倉里山自然公園は、市街地にも近接した立地でありながら、地域によって、豊かな生態系の保全・再生が図られてきた、佐倉のふるさとの風景とも言える場所である。
- ✓ 人と自然が共生するこの風景を未来に継承していくために、持続可能なマネジメント計画を策定・実行することで、グリーンインフラとしての里山の機能を最大化していく。
- ✓ 同時に、自然共生サイトへの登録を行うことで、佐倉里山自然公園の価値を発信し、共感してくれる仲間を増やし、より持続性の高いマネジメント体制を構築する。

期待される効果

- ✓ 30by30への貢献
- ✓ 適切な管理による生物多様性の保全・再生
- ✓ 雨水貯留機能の健全化
- ✓ 健全な樹木の生育によるCO₂固定
- ✓ 生態系の価値のPR

短期

OECM認定を通じた里山自然公園の価値の発信

生態系の調査データベース化

- ✓ 畔田谷津を中心とした公園予定区域全体の動植物調査の実施
- ✓ 佐倉里山自然公園における生物多様性の価値の整理
- ✓ 希少植物の保全に向けた調査・研究の実施（クマガイソウの遺伝子バンク等）

保全・活動が共生するゾーニング検討

- ✓ 調査結果に基づく保全と活動のゾーニング（団体・企業エリアも検討）
- ✓ ゾーン別の整備イメージの検討
- ✓ 動線計画の検討
※エリア設定によっては整備イメージ動線計画等が後ろにすることも考えられる

モニタリング計画の作成・OECMへの申請

- ✓ 各ゾーンにおける管理目標の設定
- ✓ 管理目標に基づく管理計画の策定
- ✓ モニタリング方法の検討
- ✓ 主体ごとの役割分担の整理
- ✓ OECM（※）の認定
※自然保護地域以外で生物多様性の保全に資する地域

次の展開

モニタリング計画に基づく健全な里山環境の再生

※他のリーディングプロジェクトとの連動を加速させながら展開

里山マネジメントの展開

- ✓ 持続的なマネジメントの実施
- ✓ 生物の生息・生育空間の創出による生物多様性の確保に資する公園整備（ネイチャーポジティブ公園事業の活用を想定）
- ✓ 休耕田の再生や池の整備を通じた湿地再生
- ✓ 伐採木の活用

持続性の強化

- ✓ 情報発信手法の検討
- ✓ 資金調達手法の検討

プロジェクトの事業スキームイメージ

地域住民・団体

- ✓ 維持管理等への参画
- ✓ 寄附等
- ✓ 環境教育の機会、遊び場等の提供

参画住民・団体

- ✓ 維持管理
- ✓ プログラム提供
- ✓ モニタリング

参画企業

- ✓ 維持管理
- ✓ 技術・知見の提供

佐倉市

- ✓ 生物調査
- ✓ 計画策定支援等
- ✓ モニタリング計画の策定
- ✓ OECM認定への申請

学識

コンサル

- ✓ 研究フィールド、研究データの提供
- ✓ 補助、認定

省庁等

2.自然共生サイトの認定

認定の要素

①生物多様性の価値と、そのデータ

→調査班による詳細な記録を集計

②モニタリング計画



2.自然共生サイトの認定



調査班
⇒植生、鳥類など7班

- 確認種リストの作成
- 経年変化等の記録

⇒再調査なし



認定の要素

①生物多様性の価値と、そのデータ

→調査班による詳細な記録を集計

②モニタリング計画

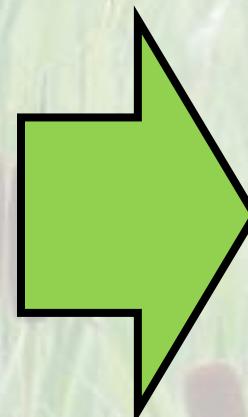
→既存の活動計画に合致



2.自然共生サイトの認定

②モニタリング計画 →既存の活動計画に合致

- ・エリア分け、情報管理等のルール
- ・年間管理計画+定例活動計画
⇒下見等による「順応的管理」
- ・年度ごとに活動報告書作成
⇒事務局（市）で蓄積



申請に際して
既存の活動の改変
メンバーへの実務負担
少

2.自然共生サイトの認定

課題と展望

認定＝メンバーの知識・経験

ノウハウの継承

⇒体験や支援が気軽にできるかたちに

持続可能な施策展開

★楽しく、無理なく

畔田谷津ワークショップを
佐倉市N P施策のリーディングプロジェクトに



3. ワークショップメンバー 美濃和さんのお話

ご清聴ありがとうございました

使用写真提供：元メンバー 浅野さん
畔田谷津周辺の野鳥ハンドブック
(メンバー 小林さん作成)
も展示中！

